

表4 昭和58年度 教職員人間ドック検診結果

検診項目	男					女					計				
	男女 指導 基準	A	B	C	D	計	A	B	C	D	計	A	B	C	D
一般理学	(61.6) 879	(15.5) 221	(21.7) 310	(1.2) 17	1,427	(69.1) 398	(11.6) 67	(18.1) 104	(1.2) 7	576	1,277	288	414	24	2,003
呼吸器	(79.8) 1,139	(12.6) 180	(7.2) 103	(0.4) 5	1,427	(84.2) 485	(12.7) 73	(2.8) 16	(0.3) 2	576	1,624	253	119	7	2,003
循環器	(37.9) 540	(26.2) 374	(27.1) 387	(8.8) 126	1,427	(51.4) 296	(22.4) 129	(19.1) 110	(7.1) 41	576	836	503	497	167	2,003
消化器系	(47.6) 679	(22.4) 319	(27.6) 394	(2.4) 35	1,427	(56.4) 324	(24.7) 142	(18.2) 104	(0.7) 4	574	1,003	461	498	39	2,001
腎機能	(83.3) 1,189	(11.5) 165	(4.8) 68	(0.4) 5	1,427	(77.6) 447	(17.1) 98	(5.0) 29	(0.3) 2	576	1,636	263	97	7	2,003
胆のう	(92.0) 1,310	(2.7) 39	(4.5) 63	(0.8) 12	1,424	(92.4) 532	(2.6) 15	(4.5) 26	(0.5) 3	576	1,842	54	89	15	2,000
肝機能	(77.1) 1,100	(13.7) 195	(8.1) 115	(1.1) 17	1,427	(90.5) 521	(6.8) 39	(2.4) 14	(0.3) 2	576	1,621	234	129	19	2,003
糖尿病	(64.0) 914	(19.1) 272	(12.7) 181	(4.2) 60	1,427	(70.1) 404	(16.5) 95	(10.4) 60	(3.0) 17	576	1,318	367	241	77	2,003
血液系	(83.4) 1,190	(12.9) 184	(3.2) 46	(0.5) 7	1,427	(74.1) 427	(16.8) 97	(6.1) 35	(3.0) 17	576	1,617	281	81	24	2,003
血清	(94.7) 1,352	(4.3) 61	(0.9) 13	(0.1) 1	1,427	(95.5) 550	(4.0) 23	(0.5) 3	0	576	1,902	84	16	1	2,003
眼科	(68.7) 959	(21.4) 299	(7.3) 102	(2.6) 36	1,396	(78.9) 445	(16.2) 92	(3.0) 17	(1.9) 11	565	1,404	391	119	47	1,961
婦人科						(74.1) 398	(16.4) 88	(5.2) 28	(4.3) 23	537	398	88	28	23	537
延計	(71.8) 11,251	(14.7) 2,309	(11.4) 1,782	(2.1) 321	15,663	(76.2) 5,227	(14.0) 958	(8.0) 546	(1.8) 129	6,860	16,478	3,267	2,328	450	22,523

(注) A……異常なし

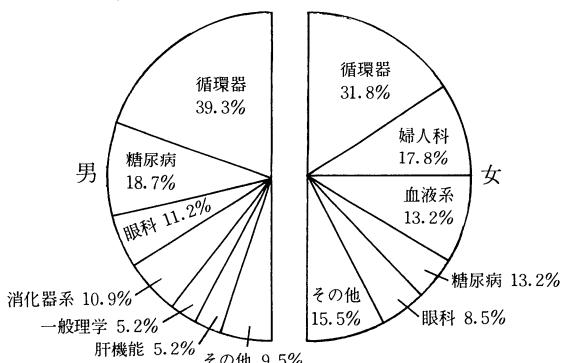
上段( )内はパーセント

B……わずかに異常を認めるが日常生活上支障なし

C……日常生活上注意を要する。改めて精密検査を要する。

D……治療を要する。

図7 治療を要する者の検診項目別割合



循環器系結果の要因は、血圧が主であります。健康のバロメーターといわれる血圧の結果が特に男において悪い結果となっていることに留意する必要がある。血圧は、当然ながら心疾患、脳血管疾患に結びつくものであり、前述の教職員の死亡状況で述べたとおり教職員の脳血管疾患による死亡率がやや高いことも併せて留意する必要がある。図7は、各検診項目で治療を要すると

この検診項目の結果は男女共に他の検診結果と比較して一番悪い結果となっているということである。特に男女間の格差が十三・五ポイントと大きな開きがあることのみのがせない事実となつてている。

循環器系結果の要因は、血圧が主であります。健康のバロメーターといわれる

血圧の結果が特に男において悪い結果となっていることに留意する必要があ

る。血圧は、当然ながら心疾患、脳血

管疾患に結びつくものであり、前述の

教職員の死亡率がやや高いことも併せて留意する必要がある。

図7は、各検診項目で治療を要すると

循環器系結果の要因は、血圧が主で

あります。健康のバロメーターといわれる

血圧の結果が特に男において悪い結果となつていています。人間ドックにおける循環器系の検診内容は、

日本人に多いとされる胃ガンを反映し

トと男が悪い結果となつていています。人間

ドックにおける循環器系の検診内容は、

日本人に多いとされる胃ガンを反映し

てか他の検診項目に比較して精度の度

合は強いといわれています。こうした点

もある意味で数値が高くなっている可

能性もあるが、それについても決して低

い数値ではない。

一般理学、循環器系、消化器系の三

検診項目について述べてきたがこれ等

検診項目は、成人病に結びつきやすいの

で人間ドックの検診項目で特に強調し

たいと考えたからである。他の検診項

目については、図表等を参考にみて頂

ければ幸である。

なお、先に述べたとおり人間ドック

の受診者は、一般的に健康であると認

識し日常生活を送っている教職員であ

る。

注意したいのは延数計算ではあるが

受診者全体のうち二パーセント、つまり五十人に一人の割合で治療を要する

と医師から診断された事実である。こ

の数値が高いか低いかはいろいろ論ず

る。

判断された者の検診項目による割合を

図に示したものである。循環器系で治

療を要すると判断された者がいかに他

の検診項目と比較して多いかがわかる。

治療を要するとは、医師から通院あ

るいは入院等治療をしなさいと指示さ

れた者であり、この数値の高さは厳肅

に受けとめるべきと考える。

消化器系は、循環器系について検診

結果が悪く、男女の差も八・八ポイ

ントと男が悪い結果となつていています。人間

ドックにおける消化器系の検診内容は、

日本人に多いとされる胃ガンを反映し

てか他の検診項目に比較して精度の度

合は強いといわれています。こうした点

もある意味で数値が高くなっている可

能性もあるが、それについても決して低

い数値ではない。

一般理学、循環器系、消化器系の三

検診項目について述べてきたがこれ等

検診項目は、成人病に結びつきやすいの

で人間ドックの検診項目で特に強調し

たいと考えたからである。他の検診項

目については、図表等を参考にみて頂

ければ幸である。

なお、先に述べたとおり人間ドック

の受診者は、一般的に健康であると認

識し日常生活を送っている教職員であ

る。

注意したいのは延数計算ではあるが

受診者全体のうち二パーセント、つまり五十人に一人の割合で治療を要する

と医師から診断された事実である。こ

の数値が高いか低いかはいろいろ論ず

る。

注意したいのは延数計算ではあるが

受診者全体のうち二パーセント、つまり五十人に一人の割合で治療を要する

と医師から診断された事実である。こ

の数値が高いか低いかはいろいろ論ズ

る。